

2018年5&6月に見頃の天体



★金星（きんせい）：Venus

金星が宵の明星として夕方の西の空に輝いています。高度が低く、沈みゆくため、天体観望会の前半の時間帯にお楽しみください。

望遠鏡を覗くと、金星の形は真ん丸ではなく、満ち欠けをしている姿を確認できます。

★木星（もくせい）：Jupiter

木星が東の空から昇ってきて、こちらも圧倒的な輝きで目立っています。まだ高度が低いため、5月下旬頃から、天体観望会の後半の時間帯に望遠鏡を木星へ向けられるようになってきます。

木星は太陽系最大の惑星で直径は地球の約11倍もあり、望遠鏡を使うと縞模様と、周りを回る衛星のうちの数個を見ることができます。

この縞模様の正体は、木星の雲の模様です。木星は主に水素とヘリウムの気体らできている惑星で、アンモニアや水からできている小さな氷の雲が上空を取り巻いています。木星の自転周期は約10時間と非常に速く回っているので、上空には常に東西方向に強風が吹き、雲も東西方向に流されて縞模様となって見えるのです。

★二重星（にじゅうせい）：Double star

春の夜空では、いくつかの重星を観望することができます。重星は、肉眼で見ると1つの星ですが、望遠鏡を覗くと2つの星に見えます。

かに座のイオタは、黄色と青白色の対比が美しい2つの星が見える二重星です。りょうけん座のコル・カロリも二重星です。

ふたご座の中で2番目に明るく見える星カストルは、約500年の周期でお互いのまわりを回る連星ですが、詳しい観測から、この連星の2つの星は、それぞれさらに連星になっているし、3組めの連星も存在することがわかっています。カストルは、実は6個の星から成る6重連星なのです。

しし座のガンマ（アルギエバ）は、オレンジ色と黄色の2つの星が見える重星で、約600年の周期でお互いのまわりを回る連星です。

★球状星団（きゅうじょうせいだん）：Globular cluster

りょうけん座の球状星団M3は、数十万の恒星の集まりです。大変淡い天体ですので、夜空が暗く澄んでいる晩にだけ、望遠鏡を向けます。

私達の銀河系の中には、約150個の球状星団が見つかっています。多くの球状星団の中の星たちは非常に高齢で、100億歳以上の星も多いです。

★赤色巨星（せきしょくきょせい）：Red giant

恒星は、安定して輝く時期が長く続きます。しかし、恒星の内部の水素を使い果たすと、恒星は自身の重力で縮み始め、その際に発生する熱によって外側のガスはさらに外へと膨張し、巨大な星になります。ガスが膨れると表面の温度が低くなるため、赤色に見えます。

うしかい座のアルクトゥルスは赤色巨星で、直径は太陽の約20倍です。

★惑星状星雲（わくせいじょうせいうん）：Planetary nebula

太陽程度の重さの恒星は、一生の最期に水素ガスを使い果たして赤色巨星となった後で、外側のガスを周囲に放出します。この放出されたガスが輝いて見えるのが、惑星状星雲です。望遠鏡で見ると、惑星のように丸くぼんやり色づいていますが、惑星とは関係ありません。恒星の終末期の状態のひとつです。

おおぐま座には、ふくろう星雲と呼ばれる惑星状星雲M97があり、よく晴れた夜に望遠鏡を向けると、丸い形のガスの中に小さな黒い丸が2つ見える様子が、ふくろうの顔のように見えるような気がします。

ふたご座の惑星状星雲NGC2392は、寒い時期に頭にかぶるフードのような形をしているため、通称でエスキモー星雲と呼ばれていました。

夜空が真っ暗になってから、惑星状星雲の淡い輝きをお楽しみください。